

豊明市行政評価制度 「施策」 評価票

施策評価票番号

17

1 施策の概要

1-1 施策の名称	母子保健			基本施策コード	2-1-2
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	医療健康課	評価票作成者 課長 加藤賢司
1-3 総合計画における施策の体系	①節	保健福祉「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			
	②項	健康			
1-4 施策の目的	子どもが健やかに生まれ心身ともに健康で安全に育ち、命の大切さを実感できる環境を作る。また、地域社会全体で子育てする意識を高め、子育てに対する適切な情報が得られるよう環境を整え				

	平成22年度評価 (前期の成果)	平成27年度評価 (全期間の成果)
担当課評価	A	A
総合評価	A	

● 施策評価の判定基準

- A : 施策の目的を効果的に達成しているため継続する
- B : 施策推進の実手法等に改善の必要がある

1-5 総合計画における基本成果指標	基本成果指標名		前期（平成18年度～平成22年度）			全期間（平成23年度～平成27年度）			指標の定義 市民全般からの評価からみた母子保健サービス全般の充実状況を表す指標
			目標値（単位）	実績値（単位）	達成率（%）	目標値（単位）	実績値（単位）	達成率（%）	
	①	母子保健サービスに対する満足度	77.0（%）	74.4（%）	96.9（%）	78.0（%）			
	②								
	③								

2 施策の担当課による評価結果

評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	既存事業の構成や優先順位の考え方、新規事業の必要性の考え方	施策の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	核家族化や近隣関係の希薄化がますます進行し、親として経験や心構えが乏しく、子育てに悩み孤立化する若い親が増えている。親のライフスタイルに子どもを巻き込み子どもの生活リズムへの悪影響や児童虐待といった問題に発展することが懸念される。	少子高齢化社会で出生率を上げるため子育て支援に重点を置き、若い親の経済的な面、子育ての不安を軽減させるための施策を充実させる。	乳幼児の健診や健康指導は充実していた。子育て支援については「親のグループケア事業やひまわり広場等」で効果はあったがさらに充実させる為開催日等検討が必要である。また、小中学校生徒でのいのちの尊重事業はいのちの大切さを見直す有意義な事業となった。
平成19年度	〃	子どもの健やかな成長の促すために、乳幼児の健康のみならず親教育も含め、子育て不安の解消などキメ細かな子育て支援が必要となる。	乳幼児健診や赤ちゃん訪問の充実等を心がけている。また、子育てママの支援策等の充実にも努めた。思春期の生徒児童への予備教育に取り組んだ。
平成20年度	厚生労働省の指針を基本に事業展開をしていくが、孤立化する親へのきめ細かいフォローが必要となってくる。	〃	〃
平成21年度	〃	〃	乳幼児健診や赤ちゃん訪問の充実等を心がけている。また、小・中学校全校を対象にして思春期の生徒児童への「いのちの尊重推進事業」に取り組んだ。
平成22年度	子育て支援事業の一環として、育児不安を抱く親のグループケアや乳幼児健診や赤ちゃん訪問の充実等を心がけている。また、「いのちの尊重推進事業」に取り組んだ。	〃	〃
平成23年度	子育て支援事業の一環として、育児不安を抱く親のグループケアや乳幼児健診や赤ちゃん訪問の充実等を心がけている。また、「児童虐待予防対策」にも取り組んだ。	〃	〃
平成24年度	子育ての親が孤立しないように、出生後に乳児全戸訪問を実施している。子育て支援の視点で各事業を実施している。乳児全戸訪問や健診未実施者には、保健師が電話・手紙等で対応している。	〃	〃
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

